

緊張感

おはようございます。

昨日は、向中PTAバザーがありました。和太鼓部・吹奏楽部の演奏に、青少年委員会の餅つきや玉こんにゃくの販売にと協力してくれた皆さん、本当にありがとうございました。心配していた雨もあがり、すばらしい秋晴れのもと昨年以上に大勢の人たちに来校していただきました。学校・保護者・地域が一体となり、本当にいいバザーになったと思います。

さて、いよいよ文化祭まであと2週間あまりと迫ってきました。今日は、音楽や演劇など舞台に立つ誰もが感じる「緊張感」についてお話をしたいと思います。昔、読んだ本の中にこんな詩がありました。その詩を紹介しますので、雰囲気を感じてもらえればと思います。

『緊張感』

ライブ直前の緊張は久しぶりだ。
自分の鼓動が頭の中に響くように。
口の中がととても乾いている。

でもこのキリッとした緊張感が好きだ。
自然と沸き上がってくる高揚感。
幕の向こうからざわめきが聞こえてくる。
メンバーは各々の場所で精神統一をしている。
気づいたら円陣を組む時間になった。

リーダー木村の恒例の掛け声が。
「あんなに練習してきたんだから大丈夫。
絶対にうまくいく。よしっいくぜ」
俺たちはステージに向かって散らばっていった。

さて、みなさんも、今紹介した詩にもあったように、舞台や試合など本番前に自分の心臓の鼓動が聞こえたり、口の中が異様に乾いたりするなど、この緊張感を経験したことがあるのではないのでしょうか。

私も様々なステージで何度も経験しましたが、本番にはこの「緊張感」がつきものです。練習のときは何でもなかったのに、本番で手が震えたり、声が震えたりしてどうしようもなくなることもありました。また、大きなホールでの本番ではあがらなかったのに、20人ほどの小さな会場であがることもありました。

しかし、合唱や演劇の舞台での緊張感はどちらかというと必要です。いい緊張感（テンション）があるためにいい演奏やいい演技ができるともいえます。また、お互いの緊張感が集中力を高めて、練習の時よりもいい演奏やいい演技ができることもあります。詩の中にあつたようにリーダーは「あんなに練習してきたのだから大丈夫。絶対うまくいく」と声をかけて全員をまとめています。

来週の10月29日金曜日が文化祭です。毎年この舞台で緊張感のある感動的な発表が繰り広げられています。自分が今、何をしなければいけないかよく考え、みんなと協力して、感動的なステージにしてください。期待しています。